

第7章 資料

7.1 平成20年に行われた地震研究所談話会

第857回平成20年1月25日(金)

*** 通常講演 ***

1. 走時の数値実験による火山体火道域の検出の検討, 宮町宏樹(鹿児島大学/地震研客員)・泊 知里(鹿児島大学)
2. 跡津川断層近傍の応力測定結果について(所長裁量経費のその後), 佐野 修
3. 海底地震計観測網による余震分布から推定した平成19年新潟県中越沖地震の断層面, 篠原雅尚・金沢敏彦・山田知朗・中東和夫・酒井慎一・望月公廣・桑野亜佐子・岩崎貴哉、日野亮太(東北大理)、山崎明(気象研)、植平賢司(九大理)、高波鐵夫(北大理)、金田義行(海洋研究開発機構)

*** H19年度 所長裁量経費報告 ***

4. 火道内部の解明を目指して - 浅間山観測網の整備 -, 火山センター・ 武尾実

第858回平成20年2月22日(金)

*** 通常講演 ***

1. 紀伊半島南東沖浅部で発生した低周波微動とその震源分布, 中村 祥・武尾 実・山田 知朗・篠原 雅尚・金沢敏彦
2. 2006年愛知県深部低周波微動アレイ観測による深部低周波微動震央の連続的時間変化, 中村 祥・武尾 実, 中道 治久(名古屋大学)
3. 局所的不均一性が引き起こす亀裂進展の安定性の数値解析, 若井淳, M.J.L. Wijerathne (JAMSTEC), 堀宗朗・小国健二
4. SEIS-PCを利用した震度データ解析, 津村建四朗(地震予知総合研究振興会)
5. Time reversal source imaging, moment tensor inversion, and GRiD MT [所長裁量経費報告に代えて], 川勝均, MONTAGNER, J.-P.

第859回平成20年3月28日(金)

*** 通常講演 ***

1. Comparison of tomographic models obtained by ‘inverse’ and ‘imaging’ approach: Does ‘time reversal imaging’ change the geophysics?, Nozomu Takeuchi
2. sub-daily GPS データに基づく、2003年十勝沖地震余効すべりの初期過程の推定, 宮崎真一・Kristine M. Larson
3. 2007年中越沖地震震源域から2004年中越地震震源域にわたる地殻内不均質構造のイメージング: 地殻内不均質構造と震源断層への応力集中機構について, 加藤 愛太郎・蔵下 英司・五十嵐 俊博・酒井 慎一・飯高 隆・篠原 雅尚・金沢敏彦・山田 知朗・岩崎 貴哉・平田 直・2007年中越沖地震合同余震観測グループ
4. 2007年桜島集中総合観測により明らかになったマグマ蓄積過程, 井口正人(京都大)・2007年桜島集中総合観測グループ
5. 地震研究所に保存されている過去の調査・観測資料の再調査(その2)鳥取・東南海・三河・南海・福井地震のアンケート調査資料, 津村建四朗・鷹野 澄・野口和子
6. Asperities, slow slip and tremor, Jean-Paul Ampuero

*** 所長裁量経費報告 ***

8. 火山体内部の宇宙線イメージング, 田中宏幸・渡辺秀文・武尾実、丹羽公雄・中野敏行(名古屋大)
9. 跡津川断層下部地殻の役割の解明, 跡津川構造探査2007観測グループ・ 飯高隆

10. 岐阜-石川県ネットワークMT法観測, 上嶋誠・小河勉・小山茂、山口寛(神戸大) 村上英記(高知大) 藤浩明(富山大) 吉村令慧・大志万直人(京大防災研) 丹保俊哉(立山カルデラ砂防博物館)
11. 地震地殻変動観測機器のための絶対波長安定化レーザー光源の開発, 堀輝人・新谷昌人・高森昭光

第860回平成20年4月25日(金)

*** 通常講演 ***

1. 地震動の高精度数値解析手法と高分解能被害予測への応用, 市村強(東工大) 堀宗朗
2. センサネットワークによる社会基盤センシングへの取り組み, 小国健二、佐伯昌之(東京理科大学)
3. 次世代インライン式海底ケーブル観測システムにおけるIPネットワーク技術の開発, 金沢敏彦・篠原雅尚・酒井慎一・佐野修・歌田久司・森田裕一・山田知朗 山崎克之(地震研究所・長岡技術科学大学)
4. 文化9年(1812)11月4日神奈川地震について, 都司嘉宣
5. 「地震予知歴史研究」事始, 泊次郎
6. 歪集中帯(跡津川断層域)における地殻内不均質構造と内陸地震域への歪・応力集中プロセス, 岩崎貴哉・歪集中帯大学合同地震観測グループ・歪集中帯地殻比抵抗研究グループ・歪集中帯GPS合同観測グループ

*** H19 研究機関研究員報告 ***

7. 東海地方における地磁気経年変化と応力蓄積の関係, 山崎健一・上嶋誠・小河勉・小山茂

*** H19 所長裁量経費報告 ***

8. 次世代インライン式海底ケーブル観測システムのための水圧計システムの開発, 篠原雅尚・金沢敏彦・塩原肇・歌田久司・佐野修・森田裕一・酒井慎一・山田知朗・望月公廣・八木健夫・山崎克之(地震研・長岡技科大)
9. 火山体浅部比抵抗構造推定の高度化: AMT 測定機器の新規開発, 小山崇夫・森田裕一・上嶋誠・小河勉・歌田久司、大西信人((有)テラテクニカ)
10. 地震活動予測手法の共通評価基盤構築, 島崎邦彦・平田直・鶴岡弘

第861回平成20年5月23日(金)

*** 通常講演 ***

1. マグマオーシャンにおけるマントルとコアの分離過程の粒子法による計算, 市川浩樹、Stephan Labrosse(リヨン高等師範学校)、栗田敬

*** H19 所長裁量経費報告 ***

2. 首都圏長周期地震動観測網構築のための予備的調査, 古村孝志(情報学環CIDIR/地震研)・纈纈一起・三宅弘恵・坂上実(地震研)
3. 南ア大深度金鉱山の断層面上地震計アレー, 中谷正生・直井誠・宮川幸治・三宅弘恵・五十嵐俊博・加藤愛太郎・佐野修、井出哲(東大理)、矢部康男(東北大)、川方裕則・安武剛太・吉光奈々(立命館大) ハネス ベスター(アイエスエス)、ギルバート モレマ(サイスマジエン) チャート ノルチェ(アングロ金)
4. 無人ヘリによる火口近傍観測システムの開発, 金子隆之・安田敦・小山崇夫・大湊隆雄・武尾実・前野深・市原美恵本多嘉明(千葉大) 梶原康司(千葉大)

第862回平成20年6月27日(金)

*** 通常講演 ***

1. 野島断層炭酸塩鉱物脈の年代測定の試み, 渡邊裕美子・中井俊一・林愛明
2. Probabilistic Estimates of Network Recording Completeness, Danijel Schorlemmer, Naoshi Hirata and Hiroshi Tsuruoka
*** 岩手・宮城内陸地震速報 ***]
3. 2008年岩手・宮城内陸地震の合同余震観測, 五十嵐俊博・加藤愛太郎・酒井慎一・平田直・金沢敏彦・蔵下英司・岩崎貴哉・小林勝・荻野泉・三浦禮子・羽田敏夫・坂守・渡辺茂・田上貴代子・芹澤正人・ヤニス パナヨトプロス
4. 2008年岩手・宮城内陸地震の地質学的背景, 佐藤比呂志・加藤直子、阿部進((株)地球科学総合研究所)
5. 岩手・宮城内陸地震の震源過程解析(速報), 引間和人・纈纈一起
6. 2008年岩手・宮城内陸地震の強震観測と上盤効果の検討, 三宅弘恵・木村武志・金裕錫・坂上実・塚越大・竹本帝人
7. 2008年岩手・宮城内陸地震による鉄筋コンクリート建造物の被害と余震観測, 金裕錫・木村武志・坂上

実・塚越大・竹本帝人・三宅弘恵・壁谷澤寿海・瀨織一起・壁谷澤寿一

第863回平成20年7月25日(金)

***** 通常講演 *****

1. Probabilistic Estimates of Network Recording Completeness (2), Danijel Schorlemmer, Naoshi Hirata and Hiroshi Tsuruoka
2. 短周期地震波の成因について, 宮武隆・三宅弘恵・木村武志・隅谷謙一(三菱東京UFJ銀行)
3. 2007年中越沖地震にともなう地殻変動, 青木陽介, 古屋正人・高田陽一郎(北大), 加藤照之
4. 明治初期の地震予知思想: ミルンと関谷清景, 泊次郎
5. 地滑り堆積物の移動距離に対する体積・重力の影響, 佐藤広幸(地震研究所) 栗田敬(地震研究所) David BARATOUX(中部ピレネー天文台) 阪口秀(JAMSTEC) 波多野恭弘(地震研究所)
6. 2008年度一般公開・学生実験について, 地震研究所学生会 (発表 風間卓仁)

第864回平成20年9月26日(金)

***** 通常講演 *****

1. Fast and Robust Source Inversion by Using W-phase: a Promising Early Seismic Tsunami Warning Application, Luis Rivera (EOST,IPGS) and Hiroo Kanamori (Caltech, ERI visiting professors)
2. Applying of Seismic Wave Velocity Survey in Assessment of the Permeability Coefficient (K), at Wadi Al-Aslaa Area, Jeddah, Kingdom of Saudi Arabia, Mohammed Shokry Farag, Naoshi Hirata
3. 地震活動の評価に基づく地震発生予測 - 日本におけるテストセンターの開発 -, 鶴岡弘, 平田直, D. Schorlemmer (USC), F. Euchner (ETH)
4. 活断層で発生する大地震の発生頻度推定の課題, 島崎邦彦
5. ALOS/PALSARを用いた干渉SARで見た諏訪之瀬島の地殻変動, 及川純, 青木陽介, 古屋正人(北海道大院), 井口正人(京大防災研)
6. シミュレーションとモニタリングを統合した日本列島域の地殻活動予測システム, 橋本千尋
7. 8月に相次いで発生した火山噴火と火山センターの対応, 火山噴火予知研究推進センター

第865回平成20年10月31日(金)

***** 通常講演 *****

1. 南部チリ・パタゴニア地方, 第四紀ハドソン火山におけるマグマティズムの変遷, 折橋裕二・中井俊一・新正裕尚(東京経済大)・ホセ・ナランホ(チリ鉱山局)・元木昭寿(リオデジャネイロ州立大)・飯高隆・CHRISTMASSYグループ
2. 流体拡散を考慮したスロー地震の動的モデル化, 鈴木岳人・山下輝夫
3. 短い活断層の長期評価, 島崎邦彦
4. 三浦半島小網代湾における元禄以前の関東地震津波堆積物, 島崎邦彦・金幸隆・千葉崇(東大大学院新領域)・石辺岳男・都司嘉宣・岡村真(高知大理)・松岡裕美(高知大理)・行谷佑一(産総研)・佐竹健治・今井健太郎・泊次郎

***** 受賞記念講演 *****

5. 鬼界カルデラ7.3ka噴火のダイナミクス カルデラ崩壊過程と火砕流・津波によるインパクトの解明 【George Walkler Award 受賞講演】, 前野深

***** 所長裁量経費経過報告 *****

6. 地殻応力直接測定手法に関する技術開発研究, 佐野修・中谷正生, 平田篤夫(崇城大学)・伊藤高敏(東北大学)・伊藤久男(JAMSTEC)・加藤春實(ジオテクノス)・横山幸也(応用地質)

第866回平成20年11月21日(金)

***** 通常講演 *****

1. 海山に起因する弱いプレート間カップリングと繰り返し発生するM7級地震との関係, 望月公廣・山田知朗・篠原雅尚・金澤敏彦, 山中佳子(名古屋大学)
2. 大森と今村の東京大地震予知論争再考, 泊次郎
3. Co-seismic stress transfer and its implications on short- and long-term earthquake hazard assessment, Rodolfo Console

4. 大きな余震を予測する簡単な試み, 山科健一郎
5. Reconstructing Pacific Plate Subduction Beneath the Japanese Islands Back to the Miocene times, Satoru Honda, Alik Ismail-Zadeh (University of Karlsruhe, Russian Academy of Sciences), I. Tsepelev (Russian Academy of Sciences)

***** 特任研究員成果報告 *****

6. 無次元パラメータを用いた震源の統一的動的モデルの構築 [特任研究員成果報告], 鈴木岳人

第 8 6 7 回平成 2 0 年 1 2 月 2 6 日 (金)

***** 通常講演 *****

1. 2008 年岩手・宮城内陸地震震源域北部の稠密余震アレイ観測による余震分布と地殻構造, 蔵下英司・佐藤比呂志, 阿部進(地球科学総合研究所), 岩崎貴哉・飯高隆・加藤直子・坂守, 越谷信・野田賢(岩手大), 芹澤正人, 佐藤史祥・綿引芙美子・茂木太郎・花田類(岩手大)・川中卓(地球科学総合研究所), 酒井慎一・加藤愛太郎・金澤敏彦・平田直
2. 2008 年岩手・宮城内陸地震震源域磐井川沿いの反射法地震探査, 加藤直子・佐藤比呂志, 今泉俊文・石山達也(東北大), 戸田茂(愛教大), 越谷信・野田賢・綿引芙美子・茂木太郎(岩手大)・小池太郎(ジオシス)・阿部進(地球科学総合研究所), 平田直
3. 2008 年岩手・宮城内陸地震についての構造地質学的考察, 佐藤比呂志
4. スイスの地震観測網の地震検出能力, 楠城一嘉, D. Schorlemmer (USC), J. Woessner, S. Wiemer, D. Giardini (ETH)
5. 海溝型地震の震源モデル化と首都圏における長周期地震動評価, 三宅弘恵・纈纈一起・古村孝志

***** 受賞記念講演 *****

6. 海洋アセノスフェアの電気伝導度研究の展開 (地球電磁気・地球惑星圏学会大林奨励賞受賞講演), 馬場聖至